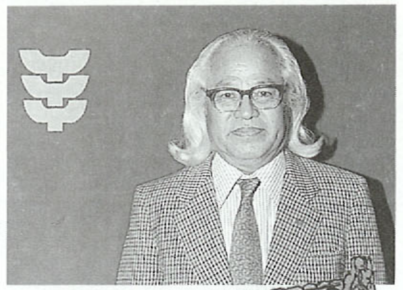
WATCHING GENKIZUKAN

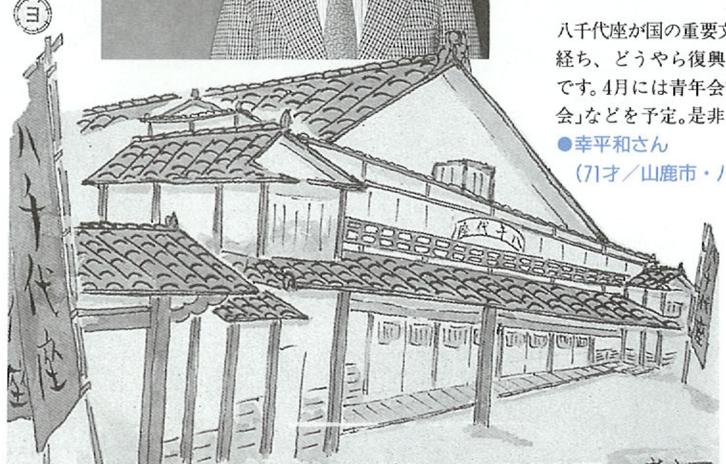
ウォッチング 元気図鑑

鹿本事務所の巻

神話と歴史のロマンチシズムあふれる鹿本地方は、水と緑の豊かな自然にも恵まれていますが、霧のたちこめるこの季節にはその魅力がより一層増すように思えます。今回は広く、「かもと」の歴史と自然と農業を代表する文化の担い手の方々に登場していただきました。

（鹿本事務所広報担当　本嶋智章）



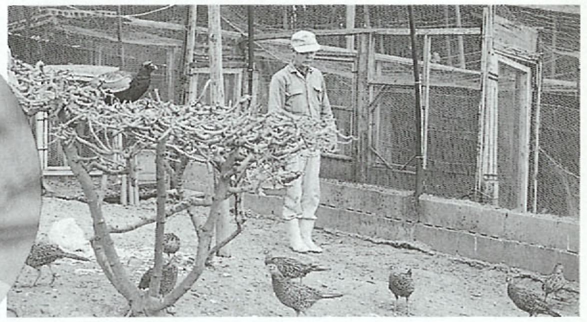


■八千代座　YACHIYOZA THEATER

八千代座が国の重要文化財に指定されて1年が経ち、どうやら復興も軌道に乗ってきたようです。4月には青年会議所主催の「永六輔講演会」などを予定。是非お出掛けください。

●幸平和さん
（71才／山鹿市・八千代座復興期成会理事）

●八千代座は毎週水曜日を除き、見学できます。大人 200円、子供 100円



●合志盛利さん
（62才／鹿本町・熊本県キジ組合長）

キジは国鳥ですが近年少なくなっていると言われます。そこで、人工ふ化したキジを自然の中に放ち、野鳥のキジが増えるよう試みています。卵からヒナがかえる瞬間はそれは神秘的です。昭和天皇をお迎えして行われた全国植樹祭でのキジの放鳥は、今も目に焼き付いています。

1.2ヘクタールの連棟ハウスから1年間にスイカを2回、メロン1回の計3回作物を取っています。農業の基本は“土づくり”、15年前から畜産農家と提携し、いち早く堆肥を導入。堆肥の発酵温度に気を配り、作物が好む土づくりを行っています。農業も企業意識を持ち、将来を見すえた取り組みをしなければと思っています。

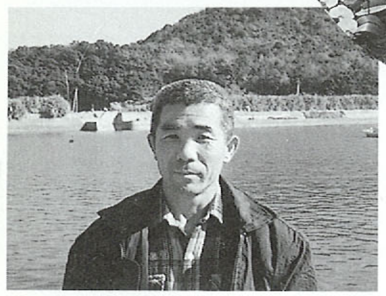
●西岡邦夫さんと裕治さん
（53才・26才／植木町・スイカ、メロンづくりの名人）

●復元された西南の役当時の弾痕の家（植木町・田原坂）

宇城事務所の巻

今、宇城地方には、自分達の地域を自分達の手で蘇らせようと全身全力で取り組むエネルギーで満ち溢れています。それは〝二十一世紀に向けて自信を持って残せるものは何だろう〟という自問自答に始まりました。地道に根気よく不屈の精神力で未来を見つめる熱いまなざしを紹介します。

（宇城事務所広報担当　内平郁子）

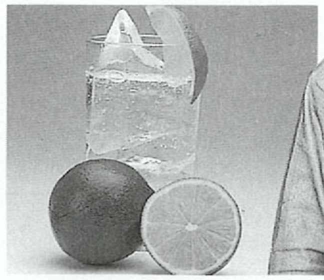


この狭い戸馳島で私たちが残せるものは何だろうかと考えて、蘭づくりを始めたのが5年前、やっと軌道に乗ってきたところです。いつも5年先のことを考えて、品種改良や販売網の確保など意欲的に取り組んでいきたいと思います。

●早瀬宗人さん（47才／三角町・五蘭塾塾長）

全国でも珍しい地域づくりの社団法人熊本県青年塾。この塾、その前身は宇城を考える会で「船場川クリーン作戦」などの活動から始まり、今では地域団体の枠を超えて県下各地にネットワークを広げ、心おこし、村おこし、人づくり運動など活発な活動を行っています。「99%は自分達の地域のこと。残り1%は県全体のことを考えよう。ただし、その1%が100になり200になるようにしよう」

●米谷正勝さん
（48才／宇土市・熊本県青年塾会長）



とびっきり新鮮で安全な“ライム”でオレンジ自由化に対抗しようと思ったんです。7年前に2～3人で“1本の木へのつぎ木”からスタート、まだまだ順風満帆とは言えないけれど、早く栽培技術を確立してハウスでの栽培を成功させたいですね。

●永目治一さん
（47才／不知火町・農協柑橘部会ライム部会長）

コンニャク生産量6トン、枚数にして72,000枚を心を込めてま～るく作りました。材料は地元で採れるコンニャク芋はもちろんのこと、近隣町村からも大量に買っています。1,000万円産業を目指すコンニャクグループです。

●藤本薫さん
（50才／中央町・山菜会会長）